

2018年12月14日

各 位

調査レポート「ハワイの観光と沖縄」の発表について

りゅうぎん総合研究所では2018年10月にハワイで現地調査を実施し、ハワイと沖縄の観光を比較・考察のうえ、レポートにまとめましたので発表します。

株式会社りゅうぎん総合研究所
代表取締役社長 照屋 保

担当: 久高 豊
連絡先: 098-835-4650

ハワイの観光と沖縄

要旨

- ・ハワイは2017年まで入域観光客数と観光消費額が6年連続で過去最高を記録している。沖縄も入域観光客数が5年連続、観光消費額は4年連続で過去最高となり、両地とも観光が絶好調である。
- ・沖縄は2017年の入域観光客数がハワイとほぼ肩を並べたものの、観光消費額はハワイの約4割にとどまる。
- ・ハワイでは好調な観光が、道路や街中、観光客の立ち寄り先の混雑がひどくなっているという印象を高め、住民の観光に対する満足度が低下している。
- ・ハワイ州のDMOであるHTA（ハワイ州観光局）は対応を迫られており、対応の方向性は、オアフ島ホノルル市および周辺地域からその他の島々への観光客の分散である。
- ・中部太平洋に位置し「どこからも遠いハワイ」と比較すると、沖縄はアジアという巨大な観光の需要地に近いという大きな優位性を持っている。
- ・需要地に近い沖縄の観光は、アジア方面からの観光客の滞在日数が比較的短い傾向にあるという特徴を持つ。一方、沖縄の観光客1人1日当たりの消費額はハワイと大差ない。また、1日当たりの観光客数の比較から、沖縄はまだ観光客の受け入れ余地がある。
- ・沖縄は、より大きな観光消費額を得るには、より多くの観光客を受け入れる必要があり、航空機や船舶といったより大きな旅客輸送能力が必要な観光地といえる。旅客輸送能力の不足は、将来の観光客数の抑制ひいては観光業による沖縄経済拡大の効果をすぐことにつながりかねない。
- ・沖縄島の北部地域にLCC専用空港を造ることを提案したい。北部地域におけるLCC専用空港は旅客輸送能力の拡大のみならず、那覇から中北部へ移動する際の陸上交通への負荷を軽減するという分散効果を持ち、航空機事故等による滑走路閉鎖といった万が一の際の相互のバックアップとしても機能するという利点も見込める。
- ・沖縄においても、現在ハワイが直面しているオーバーツーリズムへの対応が重要となり、広域連携DMOのOCVB（沖縄観光コンベンションビューロー）の役割が大きくなる。OCVBの適切なコントロールにより観光客の分散をはかり、受け入れ能力を最大限に拡大したい。

はじめに

りゅうぎん総合研究所では2018年10月にハワイで現地調査を実施し、HTA（ハワイ州観光局）やハワイエコツーリズム協会、ハワイ銀行等にヒアリングを行い、ハワイと沖縄の観光を比較・考察したので報告したい。

1. ハワイ観光の現状と課題

(1) 現状

ハワイは、2017年に入域観光客数が940万4,346人、観光消費額が168億940万ドル（1兆8,826.5億円、1ドル=112円換算）と入域観光客数、観光消費額ともに6年連続で過去最高を塗り替えている。2018年に入っても9月まで観光消費額は9.8%、入域観光客数は6.5%、それぞれ前年同期を上回っており、絶好調が続いている。

ハワイの2017年の観光消費額による雇用効果は、20万3千人と就業者（65万8,700人）の30.8%に相当し、まさに観光はハワイの経済を支えるリーディング産業である。

図表1 HTAの観光目標と尺度

| 目標 | 尺度 | 実績 | 2016年目標 | 2018年目標 | 2020年目標 |
|--------------|-------------------------------|--|---|---|---|
| 観光地の品位の改善 | 「観光は問題よりも利益をもたらしている」に肯定の住民の割合 | 2014年: 64% | 64% | 75% | 80% |
| 安定的な経済的利益の確保 | 観光関連消費の実質GDP | 2013年: 11,712百万ドル | 12,170百万ドル | 12,750百万ドル | 13,280百万ドル |
| ハワイの価値認識の向上 | ハワイ旅行を考えている観光客数 | 2015年初頭 米国西: 45% 米国東: 21% カナダ: 36% 日本: 31% | 米国西: 45% 米国東: 21% カナダ: 36% 日本: 31% | 米国西: 50% 米国東: 24% カナダ: 38% 日本: 34% | 米国西: 52% 米国東: 26% カナダ: 40% 日本: 34% |
| HTAに対する評価の強化 | 観光業界関連団体がHTAをリーダーだと認識する割合 | 評価指標検討中 | - | - | - |

出所) HTA: Five-Year Strategic Plan 2016

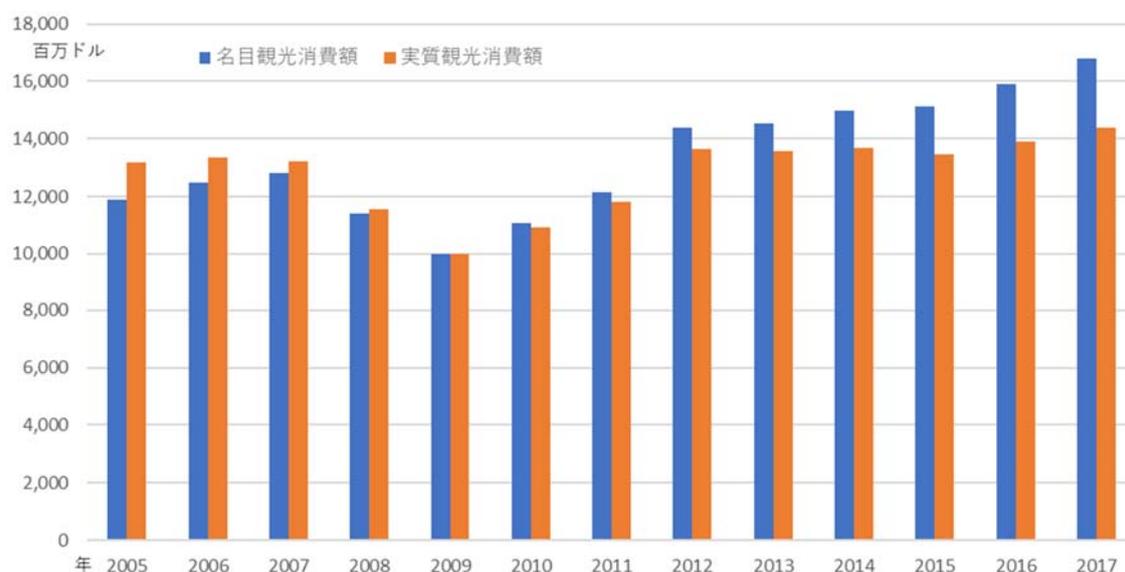
(2) 課題

ハワイ州のDMOであり州全体の観光地経営を担うHTAは、5カ年戦略プラン2016年（Five-Year Strategic Plan 2016）において、4つの目標を設定し達成の度合いをそれぞれの尺度により計測している。4つの目標とは、①観光地の品位の改善、②安定的な経済的

利益の確保、③ハワイの価値認識の向上、④HTA に対する評価の強化、である。そのうち、①は定期的実施される住民意識調査における「観光は問題よりも利益をもたらしている」に賛成する住民の割合、②は観光関連消費の実質国内総生産額、により計測される（図表 1）。

HTA の年間ビジター調査報告書 2017 年（2017 Annual Visitor Research Report）によると、観光消費額は名目でみれば 6 年連続で過去最高を更新してきているものの、ハワイの物価が 2010 年代に入って毎年 2 % 程度上昇していることから、物価を考慮すると（実質では）、観光消費額が伸び悩んでいる（図表 2）。これは、②の目標に照らすと、物価の上昇を上回るような消費単価の高い観光客の集客ができていないことになる。

図表 2 ハワイの観光消費額の名目・実質別推移



出所) HTA: 2017 Annual Visitor Research Report

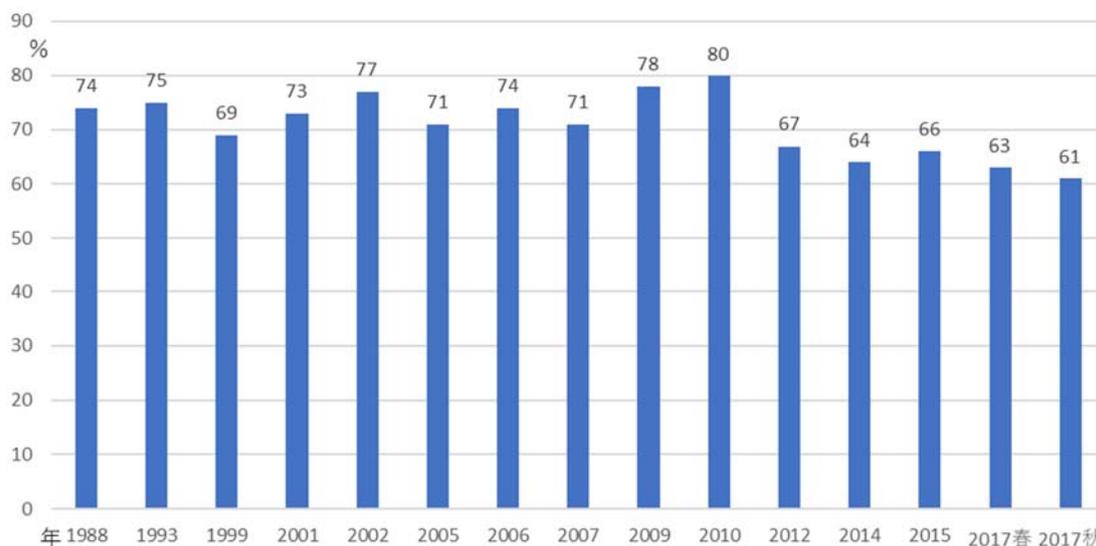
注) 実質観光消費額は GDP デフレーター（2009 年=100）にて実質化。ここでは目標の実質 GDP 額ではなく、簡易的に実質観光消費額でみている。

また、HTA の住民観光意識調査 2017 年概要版（Resident Sentiment Survey 2017 Highlights）によると、①の指標である「観光は問題よりも利益をもたらしている」に対し、「強くそう思う」または「いくらかそう思う」と答えた住民の割合が漸減している（図表 3）。観光による問題として挙げられたのが、交通渋滞、人の混雑、物価高・生活費の高さ、環境へのダメージ、などである。報告書は住民意識の改善のために、マーケティングよりもマネジメントに重点を置くことを指摘している。

観光客の増加が引き起こす負の問題を「オーバーツーリズム（over-tourism、過剰観光）」と言い、日本でも「観光公害」という似た表現を目にする機会が増えている。また、観光

振興においては従来から「量から質へ」の転換が言われてきている。住民意識調査の結果は、ハワイにおいてもこれらが差し迫った問題となっていることを示している。

図表3 「観光は問題よりも利益をもたらしている」への肯定的な回答の割合推移



出所) HTA: Resident Sentiment Survey 2017 Highlights

注) 「観光は問題よりも利益をもたらしている」に対する「強くそう思う」および「いくらかそう思う」の回答割合

HTAは、2016年に策定した2020年までの5カ年戦略プランにおいて、オーバーツーリズムの問題を認識しており、以下の対応策をすすめている。しかし、2017年時点では目標達成について苦戦を強いられていることになる。

- ・住民への観光の価値への理解を促すこと
- ・観光客の多い地域や自然環境に対する改善・管理・保護プログラムへの支援
- ・ショルダーシーズンの底上げ及びより消費額の大きい観光客の取り込みのため、MICEプロモーションの強化、観光客の集中度の高いオアフ島以外の各島への分散、拡大するアジア市場旅行市場におけるハワイのプレゼンスの強化、をはかること、など

2. ハワイと沖縄の比較および沖縄観光への示唆

(1) ハワイと沖縄の比較

沖縄は、2017年に入域観光客数が939万6,200人、観光消費額が6,948億200万円と観光客数は5年連続、観光消費額は4年連続で過去最高を記録している。沖縄観光はハワイ同様に活況を呈している。また、沖縄の2017年度の観光消費額による雇用効果は14万2,734人と、ハワイには及ばないものの、就業者(69万5千人)の約2割に相当し、就業者数の最も多い卸売業、小売業(10万8千人)や医療、福祉(10万6千人)を上回る規模

である。

沖縄は観光客数ではほぼハワイと肩を並べたものの、観光消費額はハワイの約4割にとどまっている。ハワイの観光消費額が大きいのはハワイを訪れる観光客の1人当たり観光消費額が大きく、滞在日数が長いことによる。1人当たり観光消費額はハワイが19万8,699円(1,774.1ドル×112円)、沖縄が7万3,945円である。平均滞在日数はハワイが8.94日に対して沖縄は3.65日である。

そのほかの観光データを比較すると、ハワイの観光客数全体に占める外国人の割合は37%で海路(クルーズ船客)の占める割合は1.3%である。沖縄は外国人割合が27%、海路の割合が10%である。沖縄はアジア方面客の増加傾向を受けて外国人割合が上昇しており、同様に海路客も増加している。ハワイは外国人観光客割合が2000年以降4割弱でほぼ一定している。クルーズ船客割合はリーマンショック直前の年の2007年に1.7%を記録した後、リーマンショックの年の2008年にハワイを母港とするクルーズ船3隻のうち2隻が運航を停止するなどして以来低迷しており、ハワイ観光はほぼ全てを空路客に依存している。ハワイの日本・アジア客割合をみると22%でまだ全体に占める割合は小さいものの日本を除くアジア客(5%)は増加傾向にある。沖縄の国内客(日本人)と主要アジア客(台湾、韓国、中国、香港)の観光客全体に占める割合は95%である。

ハワイは、中部太平洋に位置し「どこからも遠い」場所である。フライト時間でみると、国内最大の観光客を集めるカリフォルニア州のロサンジェルス・ロングビーチ・アナハイム地域にあるロサンジェルス空港からホノルル市のダニエル・K・イノウエ国際空港(旧ホノルル国際空港)へ6時間、また、国別の外国人観光客数で最大の日本の成田空港からホノルル市へは7時間である。

日本発のビーチリゾートへの観光商品の値段を比較すると、ハワイが14万9,800円に対してグアム9万6,800円、アジアのバリ島8万800円、セブ島7万9,800円、ダナン6万7,800円と、リゾート地の属する国による物価の違いはあるものの、距離が遠いハワイが高い傾向にある(11月発・5日間のツアー商品、JTB沖縄調べ)。

一方、こうした距離の遠さや値段の高さにもかかわらず、ハワイが世界中から観光客を集めている事実は、HTAがハワイブランドに磨きをかけ、プロモーションの大切さを認識し、実践してきたからとすることができる。そして観光客が増えた今、住民のQOL(生活の質)および観光地の持続可能性とのバランスを失いかけており、マネジメントをより重視すべき局面に入ったということである。

(2) 沖縄観光への示唆

a) 観光客の滞在日数と受け入れ余地

沖縄は、アジアという巨大な観光の需要地に近いという地理的優位性を持っている。アジアの都市からのフライト時間でみると、上海や香港から2時間半、ソウルから2時20分、台北から1時間半、羽田から3時間である。需要地に近い沖縄の観光は、アジアからみれば

ば近場の観光地として滞在日数が比較的短い傾向にあるという特徴を持つ。また、アジア客と日本人客はハワイでも欧米豪客に比べると滞在日数が短いことから、長期の休みが取りづらいなどといった休暇に対する文化社会的な背景から滞在日数が短い傾向にあるともいえる。

アジアは長期的に観光の成長が期待できる地域である。UNWTO（国連世界観光機構）は2030年までの観光の長期予測において、世界全体の国際観光客数到着数が2030年まで年平均3.3%増加すると予測し、可処分所得の増加に伴いアジア・太平洋地域が年平均4.9%と地域別で最も力強く成長する、としている。さらに、2012年以降国際観光において最大の支出国となった中国は、2014年の観光送客市場において、世界全体の観光収入の13%を創出し、特にアジア・太平洋に恩恵を与えた、としている。

図表4 ハワイ主要島の1日当たり観光客数など（単位：人、日、km²）

| | ハワイ州 | オアフ島 | マウイ島 | モロカイ島 | ラナイ島 | カウアイ島 | ハワイ島 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|--------|--------|-----------|-----------|
| 観光客数 | 9,277,613 | 5,609,752 | 2,744,994 | 58,450 | 64,357 | 1,279,968 | 1,761,489 |
| 平均滞在日数 | 9.00 | 6.74 | 8.05 | 4.76 | 3.40 | 7.52 | 7.34 |
| 一日当たり観光客数 | 228,785 | 105,141 | 60,506 | 763 | 599 | 26,364 | 35,412 |
| 面積 | 16,635.5 | 1,555.8 | 1,999.5 | 674.7 | 365.4 | 1,430.7 | 10,433.5 |
| 人口 | 1,428,557 | 992,605 | 150,203 | 7,206 | 3,539 | 69,691 | 198,449 |

出所) HTA: 2017 Annual Visitor Research Report、面積・人口はDBEDT（ハワイ州産業経済開発観光局）：Hawaii Facts & Figures November 2017

注) 人口は2016年

図表5 沖縄の島別1日当たり観光客数など（単位：人、日、km²）

| | 沖縄県 | 沖縄島 | 宮古 | 八重山 | 久米島 | その他離島 |
|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|---------|---------|
| 観光客数 | 9,396,200 | 6,519,361 | 932,274 | 1,386,646 | 110,843 | 447,076 |
| 平均滞在日数 | 3.65 | 3.65 | 3.65 | 3.65 | 3.65 | 3.65 |
| 一日当たり観光客数 | 93,962 | 65,194 | 9,323 | 13,866 | 1,108 | 4,471 |
| 面積 | 2,281.1 | 1,207.0 | 158.9 | 511.9 | 59.5 | 343.8 |
| 人口 | 1,443,802 | 1,317,715 | 48,071 | 51,226 | 8,171 | 18,619 |

出所) 沖縄県「観光要覧～沖縄県観光統計集 平成29年」、面積・人口は「2018年県勢要覧」

注) 各島人口は2016年1月1日現在の住民基本台帳人口、沖縄県の人口は2017年10月1日の推計人口。沖縄島の観光客数は当社推計。

一日当たりの観光客数（年間観光客数×平均滞在日数÷365日）に着目すると、沖縄はハワイに比べ、まだ観光客の受け入れ余地（キャパシティー）があることがわかる。ハワイの一日当たり観光客数は約23万人である。ハワイは142万9千人の人口（2017年）のほかに常時23万人の観光客がいることになる。対して沖縄は9万3,962人とハワイの4割程度である（図表4）。

ワイキキビーチを擁し政治・産業・観光の中心ホノルル市があるのがオアフ島である。オアフ島の一日当たりの観光客数は10万5,141人、次いで観光客数の多いマウイ島（郡）が6万1,868人であり、オアフ島から他の島、特にマウイ島への観光客の分散はすでにある程度すすんでいることがわかる。

観光客の集中度が高い沖縄島について一日当たり観光客数をみってみる。沖縄島だけの観光客数は公表されていないことから、沖縄県の観光要覧に掲載されている八重山、宮古、久米島およびその他島別観光客数より沖縄島の観光客数を簡易的に推計すると652万人となる。これより沖縄島の一日当たりの観光客数は6万5千人となる（図表5）。オアフ島の一日当たり観光客数約10万5千人と比較すると6割程度となり沖縄島はまだ受け入れ余力があるということが出来る。ただし、沖縄島はオアフ島に比べると、面積がやや小さく、人口が多いことには注意が必要で、受け入れ拡大にあたっては、より観光客の比較的小さい地域（沖縄島北部や那覇市以南など）での拡大をめざすべきであろう。

b) 1人1日当たりの消費額と受け入れ能力

図表6 ハワイの1人1日当たりの地域・空路/海路別観光消費額（単位：円、日）

| | 米国西 | 米国東 | 日本 | アジア | カナダ | 欧州 | オセアニア | 空路客 | 海路客 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 宿泊 | 9,038 | 10,147 | 9,139 | 9,150 | 8,680 | 8,590 | 10,965 | 9,330 | 2,509 |
| 交通 | 2,150 | 2,610 | 1,467 | 3,270 | 1,982 | 2,509 | 1,904 | 2,229 | 907 |
| 買物・土産 | 1,904 | 2,162 | 7,246 | 9,318 | 1,579 | 1,635 | 6,574 | 3,147 | 2,038 |
| 飲食 | 4,189 | 4,760 | 5,667 | 6,418 | 3,730 | 4,973 | 6,115 | 4,659 | 1,568 |
| 娯楽 | 1,781 | 2,453 | 2,128 | 3,192 | 1,411 | 1,960 | 2,800 | 2,083 | 2,968 |
| その他 | 470 | 1,366 | 1,176 | 538 | 582 | 560 | 1,770 | 874 | 16,598 |
| 合計 | 19,544 | 23,486 | 26,824 | 31,886 | 17,965 | 20,238 | 30,128 | 22,310 | 26,600 |
| 滞在日数 | 9.07 | 10.08 | 5.95 | 7.42 | 12.44 | 13.06 | 9.66 | 9.00 | 4.41 |

出所) HTA: 2017 Annual Visitor Research Report

注) 1ドル=112円換算

ハワイは空路客について、国・地域別の観光客1人1日当たりの消費額を公表している。ハワイと沖縄の空路客の観光客1人1日当たりの消費額を比較すると、空路客はハワイ199.2ドル(2万2,310円)、沖縄2万258円(73,945円÷3.65日)である(図表6、7)。滞在日数が長くなると一日当たりの消費額は漸減する傾向にあり、一日当たりでみるとハワイと沖縄の消費額の差は小さい。

以上のことから、沖縄がより大きな観光消費額を得るためには、より多くの観光客を受け入れる必要があり、航空機や船舶といった旅客輸送能力がより必要であるといえる。また、旅客輸送能力の不足は、将来の観光客数の抑制、観光による経済拡大効果をそぐことにつながりかねない。

宮古島では伊良部大橋で結ばれた下地島に三菱地所が旅客ターミナルを建設中で、2019年3月の開業とともにLCCのジェットスター・ジャパンが成田空港と下地島空港間に定期便を就航させる。また、国際線の誘致もすすめるという。宮古島は宮古空港に加えて下地島空港という新たな旅客輸送能力を獲得し、より多くの観光客を受け入れ、経済の拡大がはかれることとなる。

沖縄島では那覇空港が2020年に新滑走路が供用予定であり発着容量が拡大する見込みであるが、拡大幅については現状の1.1から1.2倍程度にとどまるともいわれている。また、モノレール、バス、タクシー、レンタカーといった陸上交通への接続困難や周辺道路の慢性的な渋滞等も含めると将来にわたるキャパシティの十分な確保には不安がある。

図表7 沖縄の1人1日当たりの国内/国外客・空路/海路別観光消費額(単位:円、日)

| | 国内客 | 空路外国客 | 海路外国客 | 全体 |
|-------|--------|--------|--------|--------|
| 宿泊 | 6,550 | 5,832 | - | 6,208 |
| 交通 | 2,828 | 2,397 | 3,385 | 2,740 |
| 買物・土産 | 3,678 | 6,173 | 21,373 | 4,724 |
| 飲食 | 4,340 | 4,198 | 4,097 | 4,299 |
| 娯楽 | 1,960 | 1,276 | 1,165 | 1,777 |
| その他 | 336 | 862 | 2,306 | 512 |
| 合計 | 19,691 | 20,738 | 32,326 | 20,259 |
| 滞在日数 | 3.69 | 4.90 | 1.00 | 3.65 |

出所) 沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課「【暦年】平成29年の観光収入について」

注) 各観光客1人当たり県内消費額を各滞在日数で割って1日当たりとした

本稿では沖縄島の北部地域にLCC専用空港をつくることを提案したい。北部地域におけるLCC専用空港は旅客輸送能力の拡大のみならず、那覇から中北部へ移動する際の陸上交通への負荷を軽減するなどの分散効果を持ち、事故などによる滑走路閉鎖といった万が一

の際には相互のバックアップとして機能するという利点も見込める。また、LCC 専用であればターミナル施設は豪華である必要がなくコスト軽減と建設期間の短縮がはかれるとみられる。

c) オーバーツーリズムへの対応

沖縄も現在ハワイが直面しているオーバーツーリズムへの対応が重要な課題となる。沖縄県が初めて実施した「沖縄観光県民意識調査 18 年 7 月」では観光の悪影響として交通混雑や生活環境の悪化、治安の悪化などが意識されている。

オーバーツーリズムへの対応について、沖縄の広域連携 DMO である OCVB（沖縄観光コンベンションビューロー）の役割が今後さらに大きくなるものとみられる。沖縄はハワイと比べれば県土面積が圧倒的に小さい。最大の面積を持ち南北に長い沖縄島において、OCVB の適切なコントロールによって観光客の空間的・時間的な分散をはかり、受け入れ能力を最大限に拡大したいところである。また、八重山や宮古島、久米島、さらには有人無人あわせて 113 の島々による面的な分散もはかりたい。

また、富裕層やハワイにおけるオーストラリア・ニュージーランド客のような滞在日数が長く 1 人 1 日当たりの消費額も大きい観光客を誘致するなどして観光消費額を増やすことも重要である（図表 6 のオセアニアはオーストラリア・ニュージーランド方面客である）。

d) 県内産品利用

日本人およびアジア方面客はよく買い物をする観光客である。ハワイにおける日本人およびアジア方面客の 1 人 1 日当たりの買物・土産費をみると、欧米豪方面客に比べて大きい（図表 6）。沖縄においても同様に国内客（日本人）とアジア方面客の買物・土産費は大きい（図表 7）。買物・土産に使われる商材の県内産の利用率を上げて、より域内の経済拡大を促したいところである。

中国からの訪日客が帰国後に日本の商品をネット通販（越境 EC）で購入し消費する「帰国後消費」が起こっている。沖縄がアジアの消費地に近いことは、来沖時に沖縄の商品を気に入ってもらい、帰国後消費につなげ、物流や製造業の拡大をはかる大きな可能性がある。

（以上）